

Weekly Michael's News

2017年11月27日発行 No.56

<今週の聖句>

『そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』。』
(新約聖書 マタイによる福音書 25:40)

<教会の暦が最終週を告げる時、大切な準備が始まる!! 大きな喜び「クリスマス」に向けて…>

11月も最終週を迎え、2017年も終わりが見えてきました。この一年の歩みが守られた事を感謝しつつ、同時に心を向きたいのが大きな喜びである「クリスマス」です!! キリスト教を土台に据えているKIUでは、大学・高校で協力し学院全体でこのクリスマスを盛大にお祝いします。

まず、12月6日(水)の17:00からチャペルで大学のクリスマス礼拝が行われます!! その後、お隣の食堂で祝会も開催されます。昨年KIUキャンパスを幻想的に彩り多くの人の心を感動で包んだ「光の回廊」は、好評の声に答えて今年も開催が決定しました!! 今年はどんな輝きが見られるのか楽しみです!! またその翌週13日(水)の18:15から神戸ミカエル教会で高大合同の学院クリスマスが行われます。同じ法人に属しながら、日頃あまり交流する機会がない高校の教職員の皆さんと仲良くなるチャンス!? 永年勤続表彰も行われますので、皆様、ぜひ覚えてご参加ください!!

キリスト教のカレンダーにおいては、今週が1年の終わりとなり、次週から「降臨節」(英語ではアドベント、教派によっては「待降節」とも言います)というクリスマス前の4週間を表す特別な期間が始まります。救世主の誕生を意味する「クリスマス」、その喜びに向けてこの時にこそ必要な準備を行うのです。キリスト教センターでは、当然クリスマスの準備をしますが、その他の部署を担われている皆様も、ぜひこの一年を振り返りながら、大きな喜びに向けて備える時、心を合わせる時を過ごしていただければ幸いです。色々な事があった2017年ですが、このクリスマスを通してKIUに繋がる学生・生徒、教職員、関係者等全ての人々に神の恵みが豊かにあるようお祈りしています!!



附属高校の記念チャペルも美しく輝く



ケーキバイキングもあるよ!!

KIU クリスマス礼拝
12/6(水) 17:00



「光の回廊」は今年も開催決定!!



聖歌隊参加者、大募集中!!



あなたの心にも喜びの御告げが…?

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

11月20日(月) テーマ:「学会でフィリピンに行った時の感想」 宮本 明(リハビリテーション学部)

2週間ほど前、国際学会に出席するためフィリピンに行った。フィリピンは小さな島でできた多民族国家で、私が訪れたセブ市も人口が80万人ぐらい。ドアや窓がないバスが走っており、料金は日本円で20円ぐらいと物価や経済水準は決して高くない。しかしそこで暮らす人は皆礼儀正しく、優しく、そして明るい。見知らぬ人であっても挨拶と笑顔を交わして、楽しそうに生活している。一方で気になったのが、頻発するテロへの警備だ。銃を持つ人も多くその深刻さを感じた。先日もアメリカで銃乱射事件が起こっているが、世界全体でコミュニケーション能力低下への対策が必要だと思う。

11月21日(火)

この日は音楽礼拝で、オルガニストの伊藤純子先生演奏に耳と心を傾けました。

現在、聖歌隊ではクリスマス礼拝に向けて協力してくれる人を大募集中です!! 歌が好きな人、今年のクリスマスに何か新しいことを始めてみたいと考えている人、初心者でも構いません!! 関心のある方はキリスト教センターまでご一報下さい!!



11月22日(水) テーマ:「体育会と大学教育について」 西畑 賢治(経済学部)

学生時代、私は体育会活動をバリバリやっていた。その基本は挨拶だった。これによって礼儀正しさや上下関係など、社会で求められる力を身に付ける事ができた。学校の部活動は3~4年ほどの期間が一般的だが、ヨーロッパ等では地域のクラブがあり、そこではその種目を愛する幅広い年齢層が集まる。そこで育まれる繋がりは学校のものとは比べ物にならないほど大きい。その根底にあるのは社会的公正、寛容、また平等の精神だ。何よりもっと土台には隣人の命を大切にしようとするキリスト教精神がある。KIUも同じ土台を持つ。ぜひ様々な活動に参加し有意義な学生生活を実現して欲しい。

11月23日(木) テーマ:「9,98」 中井 久純(リハビリテーション学部)

今日のお話のタイトルに表されている数字、これは東洋大学の桐生選手が、陸上の100m走で日本人初となる9秒台を記録した時のものだ。彼は高校時代に10,01という記録を出し、そこから毎日の練習や数々の大会を経ながら力を磨き、ついに4年間の集大成としてこの結果を残すに至った。現在、これに近い記録の可能性を持つ選手として、ケンブリッジ飛鳥選手、サニブラウン選手、山縣選手、そして関西学院大の多田選手らがいる。2020年の東京オリンピックでは、この辺りの選手らで4×100mの金メダル、また個人でも決勝進出の可能性が大いにある。ぜひみんなで応援しよう!!

11月24日(金) テーマ:「人という字をよく見ると」 服部 七良(学院事務局)

私の家の周りには田園地帯が広がっているが、先日その中の用水路清掃を行った。米作りには欠かせない水を通す溝に溜まった泥や草を掻きだすのだが、それらの作業は一人で行う事が困難である。しかし複数の人間の力を合わせて助け合う事で、その作業は飛躍的に楽になる。まさに、金八先生の言葉でも有名な「人」という字の喩え(互いに支えあう事で「人」になる)の世界だ。また「人は人中、木は木中」という言葉がある。広くて肥沃な土地に生えた一本の杉は、養分も十分で大きく育つと思われそうだが、実際は木が安心してしまっただけで自ら栄養を吸収しようとしなくなり、かえってひ弱な木になってしまう。これに対し杉林の中の杉は、一本あたりの養分や水など分け前が少ないが隣のライバルに負けまいとして根や枝を張り、結果的に大きく強い木に育つ。人も同じだ。支え合い、切磋琢磨していく事で、互いに大きな成長が与えられるのではないだろうか。(文責:野間 光顕)